

令和6年度第3回学校魅力強化委員会報告

開催日	令和6年12月18日（水） 於 白石高校普通科キャンパス会議室
開催時間	15：30～17：00
出席者数	委員9名 事務局5名
出席者氏名	委員：江口、内野、川崎、喜多、岡、田中、上原、鴨川、溝口 事務局：森、江口、塚本、谷口、野見山
会議次第	1 開会 2 会長挨拶 3 議事 (1)活動報告 (2)令和7年度以降の課題について 4 閉会

議事録

3 議事

(1) 活動報告

事務局：コーディネーターとして主に2つの業務を担当してきた。(1)授業の伴走支援（総合的な探究の時間と課題研究）、(2)地域からのボランティア受け入れ窓口。

(1) 授業伴走支援：生徒の探究テーマに基づき、地域の人材や団体との連携を促進。商業科2年生では、各グループに地域の伴走者がつき、課題解決型探究学習を実施。昨年度8名だった伴走者は、今年度10名に増加。普通科や1年生のフィールドワーク等も含めると、今年度だけで約30名の地域住民が関与。コーディネーターの存在により、地域との繋がりが円滑化。

(2) 地域からのボランティア受け入れ窓口：地域からの要請に基づき、生徒のボランティア活動を支援。生徒の学びや成長に繋がる活動を重視。子どもフェスティバル等では、生徒が主体的に企画・運営。コーディネーター導入効果としては地域連携の強化、地域に開かれた学校づくりに貢献。

(2) 令和7年度以降の課題について

委員1：生徒と地域住民の交流は、地域への愛着形成や高齢者の刺激に繋がる。コーディネーターの不在は、今後の活動に大きな影響を与える可能性がある。

委員2：地域との繋がりを維持・発展させるためには、コーディネーターのような存在が不可欠であるが、学校職員が同様の役割を担うことは難しいのではないかと。

委員3：地域を知ることは、地元への誇りを持つことに繋がる。コーディネーター不在による影響を懸念し、町として支援を検討したい。

委員4：コーディネーターのような人材の確保には、予算と組織体制の整備が必要。県や町からの支援を求めるとともに、教員の業務分担の見直しも検討すべき。

委員5：3年間の取り組みを無駄にせず、継続・発展させていくことが重要。地域住民の協力を得ながら、学校だけでなく地域全体で取り組む体制づくりが必要。OBへの声かけも検討してはどうか。

委員6：これまでの取り組みを広くアピールすることで、学校の魅力を高め、生徒募集にも繋がる。ホームページの改善やSNSの活用、PTAへの情報提供などをしてはどうか。特に、生徒自身が発信する情報は影響力があると思う。

委員7：今後は生徒がより主体的に活動に関わっていくことが重要。教員は生徒の活動をバックアップする役割を担うべき。

委員6：コーディネーター不在時に、地域からの問い合わせ窓口を明確化する必要がある。各町の特性に合わせたアプローチをしていくべき。地域づくり協議会や地域おこし協力隊との連携も検討してはどうか。

事務局：今後も地域と学校が繋がり続けるためのネットワークを構築していきたい。他県ではオープンチャットが活用されていたり地域住民の名簿を作成して活用されていたりする。

委員4：3年間の取り組みの成果を教育委員会に報告し、今後の支援を求めるべき。就職支援コーディネーターの事例を参考に、同様の制度導入を働きかけていくべき。

委員5：取組内容を保護者に周知すると学校への理解を深め協力を得やすくなる。PTA等への情報提供を。

校長：事業の成果として、生徒の自己肯定感や社会性、主体性の向上といった数値的なデータが得られている。地域との関わりを通して、生徒の視野が広がっていることを実感している。

今回はコーディネーターの不在という課題に対し、地域と学校が連携して対応していく必要性が確認された。今後は、これらの意見を踏まえ、具体的な体制づくりや活動計画を検討していきたい。

事後措置	朝礼時報告	○	職員会議にて報告	校内LANにて広報	
	その他（学校HPに掲載）				